やまなし発展の芽

フルーツ王国やまなし

雪害を乗り越えて

ブドウ、モモ、スモモの生産量日本一を誇る「フルーツ王国やまなし」を襲った2月の大雪。その大きな被害にも負けず、農家の皆さんが丹精込めて作った美味しい果物が、収穫の季節を迎えています。

「フルーツ王国山梨・スマイルプロジェクト」を立ち上げ、復興を支援しているハギトモこと萩原智子さんが、雪害でビニールハウスを失った山梨市の望月勝さん・喜久美さん夫妻を訪ね、復興への道のりや思いをレポートします。

新しいハウス用にと栽培を始めた苗木は、順調に育っている

今なお残る、雪害の爪痕

山梨市下栗原。青々と茂るブドウ棚が広がる畑の隣に、無残に折れたブドウの木が点々と残っています。「ここは?」と尋ねた萩原さんに、「親から受け継いだビニールハウス4棟のうち2棟があったのですが2月の大雪で倒壊してしまいました」と望月さん。雪が積もる前からボイラーを全開にするなど対策を取ったそうですが、「一晩で1メートルも降るとは想定外。さすがに持ちこたえられませんでした。中には樹齢15年のピオーネの棚があり、これからという時だっただけに、全身の力が抜けました」と、悔しそうに語ります。

その言葉を、かみしめるように聞いていた萩原さん。「その頃私は、東京の自宅で大雪のニュースを食い入るように見ていました。画面に映し出される深刻な状況に、涙がこぼれたことを覚えています」

この土地にあったビニールハウスが、一夜の雪でつぶれてしまった

折れてしまったブドウの木からは、新しい芽が。たくましいこの木からも勇気をもらったと

高校生ら多くの方の助けに励まされ前に進もうと決意した

ハウス1棟につき1千万円近くの費用が掛かることから、「自力での再建は無理だと目の前が真っ暗になりました」と望月さん。難を逃れた2棟のハウスでは、すでにピオーネが実を付け始めていたため倒壊したハウスを撤去する間もなく、種なしブドウにする作業に追われるようになったといいます。「私たちが想像する以上に辛かったと思いますが、いったいどうやって立ち直ったんですか」と尋ねる萩原さんに、「途方に暮れていたときに、日川高校のラグビー部の生徒たちがボランティアに来てくれましてね。慣れない手つきで一生懸命にビニールを剝がしたり、パイプを片付けたりしてくれたんです。その姿に力をもらい、もう一度やってみようと。それが、新たに動き出すきっかけになりました」と望月さん。喜久美さんも「ありがたいことに、国や県、市からの援助も早い段階で決定したものですから、気持ちが楽になり、前を向くことができました」。

新しいハウス用にと4月に植えた苗木は順調に成長し、すでに萩原さんの背丈ほどになっています。「ハウスの再建が今秋に決まったので、今年の農閑期は忙しくなります」。お二人に笑みがこぼれます。

「フルーツ王国やまなし」の生産者の誇りを胸に

幸いにも、露地栽培のブドウ棚は無事だったため、案内されたブドウ畑には、色付き始めた大粒の巨峰がたわわに実っていました。「うわぁ、見事なブドウですね。味の方はいかがですか?」と尋ねる萩原さんに、「収穫は2週間ほど先になりますが、糖度が高く粒ぞろいの良いブドウができそうです」とにこやかに語る望月さん。「良かった! 私も含め、全国には山梨の果物を待っている人がたくさんいるので、ぜひ、もうひと踏ん張りして、美味しいブドウに仕上げてください」

萩原さんのエールに、「山梨のブドウは知名度が高いです。フルーツ王国やまなしの生産者の誇りを胸に、皆さんの期待を裏切らないよう頑張ります!」と望月さんが力強く宣言。喜久美さんは「主人の思いに付いていきます」と笑顔で応えました。

「ブドウは、房の上の方が甘いんですよ」と説明する望月さん

「美味しさを伝える」それが私の役目。山梨のフルーツをこれまで以上に応援していきます！

ハウスの跡地に残された折れたブドウの木を見た時は正直ショックでした。でも、望月さん夫妻がとても明るくて、私たちの想像を絶する苦難を乗り越え、前に進んでいる姿を拝見して、「強い」と。そして「その強さが、フルーツの美味しさにつながっているんだ」と実感しました。

あれほどの雪害でしたから、どうなってしまうのだろうと不安に思いましたが、農家の方が前向きな気持ちで頑張っているお話を伺ったり、順調に育っている露地物のブドウを拝見することもできて、心から良かったと思います。

それに、今年のブドウもいただきましたがやっぱり山梨のブドウは最高です！

私にできることは、農家の方々が丹精込めて作った果物を一人でも多くの方に味わっていただけるようにPRすること。これまで以上に声を大きくし「山梨は元気だよ」「山梨のフルーツ美味しいんだよ」と伝えていきたいと思います。

やまなし大使
萩原智子さん
Tomoko Hagiwara

愛称「ハギトモ」。1980年4月13日生まれ。甲府市出身。シドニーオリンピック出場、元競泳日本代表。現在は日本水泳連盟理事、日本水泳連盟の新設「アスリート委員会」の委員長に就任。
番組出演、執筆・講演活動など、さまざまな場面で活躍中。
記録的な大雪で被害を受けた故郷山梨県のために復興チャリティー「フルーツ王国山梨・スマイルプロジェクト」を立ち上げ、今も活動を続ける。

農業振興への取り組み

アグリマスター制度
高齢化が進む農家の後継者育成にも貢献

県では、優れた技術や指導能力を持つ農家をアグリマスター（就農定着支援農家）に認定し、その指導の下、一定期間研修することで、就農希望者が農業技術を習得し、やがては独立できるよう支援しています。

多くの人の助けがあってこそ一人前になれるのが農業

何事も基本が大切。しかし、しっかりと学んでその通りにやったつもりでも先輩たちのように品質の良いものは作れません。失敗を繰り返すことで自分なりのやり方を確立していく。でも、それを始めからやっていると、一人前になるのに何十年もかかってしまう。それでは大変なので、一日でも早く独り立ちできるよう、自らの失敗の経験も踏まえ、アドバイスをしています。アグリマスターになって4年、すでに5人の研修生が就農し、頑張っています。研修期間は1～2年間ですがその後も何かあれば力になりたいと思っています。

JA梨北 穂坂担い手育成プロジェクトチーム
アグリマスター
横森 優さん

横森さんの指導を受ける小島さんと農業大学校の相山さん

世界に誇れる日本のブドウを作りたい

研修生
小島 伸さん
（神奈川県から韮崎市に移住）

出張などで外国へ行くたびにいろいろな果物を食べましたが、日本で食べるような、甘みと酸味の調和が取れた美味しいブドウはありませんでした。日本の果物は先人たちが心血を注いで作り上げた技術の賜（たまもの）であり、日本の誇れる伝統工芸そのものといえるのではないか、果樹作りに取り組むことでその一端を自分も担えるのではと考え、就農を決意しました。

今は、横森さんの親身な指導の下、ブドウを栽培しています。

目標は、食べた方に感動を与えられるブドウを作ること。それができたら、作った果物を、国内はもとより海外にも広く販売していきたい。世界中の人々に、「日本のブドウって本当に美味しい！」と言ってもらうことが僕の最大の夢なんです。

【問い合わせ先】担い手対策室　TEL 055-223-1621　FAX 055-223-1622　山梨アグリマスター　検索

山梨の元気なフルーツ届けました！

2月の記録的な大雪により、果物のハウスが倒壊するなど甚大な農業被害を受けた山梨県。国をはじめ、さまざまな方面から復興への支援を頂きました。そのお礼として、安倍首相、読売巨人軍・松本哲也選手に収穫したばかりのフルーツを届けました。また、京都では「山梨のモモを食べよう！」をキャッチフレーズに、山梨の元気なフルーツをPRしました。

シャインマスカットを試食する安倍首相

7月18日

首相官邸に安倍首相を訪問

国による復興支援に感謝し、横内知事と萩原さん、山梨フルーツレディーが、雪害を乗り越え収穫されたフルーツを贈りました。

「フルーツ一同から」として贈られた感謝状

7月15日

東京ドームに松本選手を訪問

山梨市出身の松本選手は、萩原さん主宰の「スマイルプロジェクト」のオークションに、サイン入りバット・グラブセットを出品。お礼に感謝状とフルーツを贈りました。当日の試合は「やまなしフルーツナイター」として開催され、観客200名に抽選でモモをプレゼントしました。

京都府広報監「まゆまろ」へ横内知事からモモを贈呈

7月22日

京都でトップセールス

横内知事は、京都市中央卸売市場でフルーツのセールスを行った後、京都駅前広場で、JAグループ山梨、山梨フルーツレディーの皆さんと抽選会を行うなど、関西方面に元気な山梨のモモをPRしました。

萩原さんも駆け付け山梨のモモをPR

動画で見てみよう！ ハギトモさんのレポート

❶スマートフォンまたはタブレットに「junaio」のARアプリをダウンロード（無料）
❷アプリを起動 ❸この写真にかざしてスキャンボタンを押すと動画が始まります。

junaio（ジュナイオ）

【問い合わせ先】農産物販売戦略室　TEL 055-223-1603　FAX 055-223-1604